

国立国際医療研究センター(NCGM)
がんサバイバーシップ外来を受診される
小児がん経験者の皆さんへ

NCGM
がんサバイバーシップ外来における
トランジションの指針(ポリシー)



トランジションの目的と役割

小児がんの治療を終了した後に直面する健康の問題を晩期合併症といいます。心臓の障害や二次がんのように命に関わるものから、発達や内分泌障害、こころの問題のように生活のしやすさに関わるものまでさまざまです。

晩期合併症は、がんの種類や治療、発症した年齢などによって起きるリスクが異なりますが、これらの情報について正しく理解し適切に対処することは、今後よりすこやかに過ごすことに役立ちます。

小児科から成人の診療科に移行(トランジション)する目的は、皆さんが現在抱えている、もしくは今後生じる可能性のあるさまざまな問題を、成人医療の視点から改めて見直し、健康の状態をよりよく保てるようにすることです。

NCGM がんサバイバーシップ外来では、今までの治療や経過、現在のからだの状況や暮らし、将来の希望や計画もふまえて、最適な健康管理の形を皆さんと一緒に考えます。そのためには、皆さんにご自身の健康に関心を持ち、健康管理に主体的に関わっていただくことが必要になります。

私たちは、医療・福祉のさまざまな専門職や、皆さんの暮らす地域の家庭医などと連携しながら、皆さんが自立したすこやかな生活を送ることができるようお手伝いします。

地域医療との連携を図ります

長期フォローアップ外来とは異なり、当院で全ての問題に対して長期にわたり治療を継続することはありません。目安として最初の1-2年で、社会生活及び晩期合併症のリスクを踏まえた健康管理の問題点の整理をしていきます。専門的な経過観察・診療が必要な問題と、お住まいの地域の医療機関(医院/クリニック/診療所)で管理をしていく問題とを整理し、地域の医療機関と連携を図っていきます。3年くらいの間に今後の健康管理の計画と一緒に考えていきます。もちろんその後も、地域の医療機関で健康管理をしていく上で何かお困りごとがあれば、いつでも当院に相談することが可能です。



治療サマリーについて

当科を受診する際は、がん治療を行った小児科から発行された治療サマリー(治療のまとめ)やフォローアップ手帳があれば、持参してください。治療サマリーは皆さんが受けてきたがんの治療や健康上の問題点について記録したものです。成人になって新たな問題がでてきた場合は、治療サマリーを上書きしていくこととなります。

もし治療サマリーなどの記録がご自身の手元がない場合は、保護者の方に確認してください。もしなくしてしまっても、治療サマリーは、がんの治療をした病院で手に入れることができます。



成人医療のしくみ

成人医療は診療や費用の面で小児医療と仕組みが異なります。わからないことや不安なこと、納得できないことがあれば、遠慮なく質問してください。



小児科では小児科医が全身を診ますが、成人医療では臓器や疾患によって診療科が専門分野に分かれているため、状況によって、複数の診療科の専門家が関わることとなります。



小児期は、主に保護者の方が皆さんに代わって最善を考え、さまざまな選択や決定をされてきたかと思いますが、これからは皆さんご自身が中心となり、ご自身の考えをもとに選択や決定をしていくこととなります。保護者や介

護者、あるいはご友人が診察に同席することや、健康についての決定に関わることに限らず、皆さんの意思が尊重されます。日本の法律上、18歳からは治療や検査の同意書への署名をご自身で行うことになります。

- ✦ 小児慢性特定疾病医療費助成制度での助成は終了し、医療費は、20歳になると自己負担(3割負担)となります。



今後の健康管理計画を提案します

皆さんが当科を初めて受診した後、紹介元の医療チームと当院の成人医療チームとで合同カンファレンスを行い、紹介元のチームから病気のことや、これまで受けてきた治療のこと、治療中や治療後の状況について情報共有のうえ、これからの健康管理の計画を立て、皆さんに提案いたします。

- ✦ 成人医療では全ての晩期合併症のリスクに対して必ずしも検査を定期的に行うことはありません。晩期合併症は必ずしも起こるわけではありませんが、そのリスクと対処法を知っておくこと、発症した晩期合併症に対して対処することが大切です。また心身の不調や生活上での不自由があった場合などに必要に応じて医療機関を受診すること、職場などの健康診断で異常を指摘された場合には、様子を見ずに医療機関を受診することも大切です。

- ✦ 病気や治療により、理解や判断、記憶などの力が落ちてきたと感じるようになることがあるかもしれません。情報の管理や体調の自己管理に自信がない場合であっても、どんな工夫ができるか私たちも一緒に考えてまいりますので、ご安心ください。



引っ越しされる場合には、転居先に医療をおつなぎします

もし今後引っ越しをする場合は、転居先で受診・相談できる場所(医院/クリニック/診療所や専門機関)を見つけるお手伝いをします。どこで暮らしても自分の健康は自分で管理するという心構えが大切ですが、皆さんが新天地で安心して過ごせるよう責任を持って引き継ぎをします。



チーム医療で支援します

健康管理には、からだに起こることだけでなく、こころや暮らしに起こる問題への対処などさまざまな側面があります。NCGM では、がん相談支援センターを窓口として、AYA 支援チーム（医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、心理士などから構成されたチーム）のメンバーをはじめとする様々な専門職が皆さんの不安や悩みに対応することができます。ご不明な点やご希望などありましたら、いつでも誰にでもお気軽にお声かけください。